



XFILE3 | バージョン 6.6 リリースノート

(2023 年 11 月)

警告

- > XFile 6.6 バージョン以降、C-NEXT は 2024年 1月にサポート終了となるため、Contribution ワークフロー（C-NEXT 統合）はサポートされなくなりました。
Contribution設定とオプションは XFile3 UI から削除されました。
- > 6.2バージョン以降、Xfile3インストーラーは1つではなく、3つのファイルで構成されています。
.exeファイルを実行してXfile3インストールを開始する前に、3つのファイルすべてを同じローカルフォルダーにコピーする必要があります。
- > 6.0バージョン以降、Xfile3はライセンス管理のために新しいVIAライセンスシステムに統合されています。
XFile3 6.4以降を実行および操作するには、新しいXFile3およびXTAccessの有効なライセンスが必要です。
新しいライセンスを入手するには、フォトロンに連絡してください。
XViewer（XFile3に統合されている）ライセンスのみは、XSecureを使用し続けています。

新しい機能

バージョン 6.6

- > ArchiveタブとAuto-Archiveタブでは、“to EVS server”テンプレートを使用する場合、新しい“Same as source”オプションが追加され、選択したクリップを XT サーバーのオリジナル/ソース クリップの隣にアーカイブできるようになります。
ゴールは、Xfile3 と使用する場合の XtraMotion ワークフローの改善です。
この機能は、Multicam 20.6 と組み合わせて使用することをお勧めします。
- > ProRes 4K コーデックのサポート
- > VIA-XSQ 4.8の統合
- > Multicam 20.6 との互換性

バージョン 6.5.2

- > 統合版 4.7 VIA-Xsquare バージョンのアップデート。
XFile3 6.5.2 に、4.7.2.62 VIA-Xsquare バージョンが統合されました。

バージョン 6.5

- > Restore タブで使用される VIA Xsquare エンコーダ プロファイルを、XFile3 から更新できるようになりました。
新しい edit ボタンにより、Xsquare エンコーダ プロファイル エディタにアクセスできるようになります。
- > 統合された XViewer でクリップまたはファイルをプレビューするときに、Camera Label 情報が表示され、編集できるようになりました。
- > XFile Lite Media Manager only モードは、XFile3 HW 以外に展開でき、Windows 11 で検証されています。
XFile3 full package とその他のモードはまだ Windows 11 をサポートしていません。
- > Multicam 20.5 互換
- > XFile3 6.5 は、Xsquare ユーザー インターフェイス用の新しい UI を含む VIA Xsquare 4.7 を統合します。

バージョン 6.4

- > ファイルを削除するオプションが XFileLite に実装されました。
- > Multicam 20.4互換

バージョン 6.3

- > Multicam 20.3互換

バージョン 6.2

- > Multicam 20.2互換
- > VIAメタデータ(BEMデータモデル)の統合: LSM-VIAワークフローのBEMデータモデル統合
- > MediaManagerタブで複数のファイルを削除可能
- > MediaManagerタブでファイルを移動するための新しいオプション
- > プレイリストをレンダリングするときに既存のswapオーディオトラックのをサポート
- > XFile3でのVIAライセンスUIの統合
- > XFile3でのMediagridネットワークドライブの統合

バージョン 6.1

- > Multicam 16.6 と Multicam 20.1互換
- > AutoRestore と Restore タブから、XSQ Encoder プロファイルへのアクセス
- > SLISMメディアアーカイブ時のオーディオ含むSLISM情報の保持
- > Aux trackのサポート:プレイリストのレンダリング時
- > XFile3インターフェースからのユーザマニュアルHTMLページのアクセス (PDFファイルの置き換え)
- > XT Servers最大34 XTサーバーのサポート

バグ修正

バージョン 6.6

- > [Archive] LSM リモート (LSM-VIA ではない) でセットアップを行う場合、プレイリストのフラット化が失敗し、“Object reference not set to an instance of an object”というメッセージが表示されることがあります。
このバグは体系的なものではないため、同じ操作を再試行すると回避策として機能する可能性があります。
- > [Archive] プレイリストをホストしているMulticamに“Net Name”が設定されていない場合、プレイリストのフラット化が正しく機能していなかった問題を修正。
- > XFile3 によって検出された XT サーバー リストから 1 つの XT サーバーが欠落していることがあった問題を修正。
- > ユーザーまたは非ユーザーのテンプレートを“edit”しようすると、テンプレート ウィンドウが開いても、“template could not be found”と表示されることがあった問題を修正。
- > [XFile3 から XSquare テンプレートを編集する場合、ユーザーが初めて編集ボタンをクリックするとテンプレートエディターにアクセスしますが、ユーザーが編集ボタンを 2 回目にクリックすると、XSquare のホームページにアクセスする問題を修正。

バージョン 6.5.2

- > [AutoArchive] すでにオートアーカイブされているクリップが LSM-VIA オペレーターによって変更されると、アーカイブされたクリップのメタデータは、01-JAN-1970 00:00:05:00 にリセットされた TC-IN を除いて、正しく更新された問題を修正。
この問題は、LSM-VIA を使用するオペレーターでのみ発生しました。

バージョン 6.5

- > [AutoArchive] XFile3 を起動し、サーバー同期フェーズ中 (XFile3 の起動時) に、“Flag for archive”に基づいて既存の AutoArchive ルールをすぐに起動する場合、その瞬間にアーカイブするクリップをマークしても、Xfile3 には影響がなく、したがって、フラグが設定されたクリップに対してジョブはトリガーされない問題を修正。
これは、サーバー同期フェーズ外、または XFile3 が電源オフのときにフラグが設定されたクリップ以外では発生しません。
- > XT サーバーの REC Name を変更すると、XFile3 のストリーミング インターフェイスでは変更が更新されない問題を修正。
- > 非常に大規模な XT ネットワークでは、XFile3 が開かず、正しく動作しないことがあった問題を修正。
- > XT サーバーが “clear video disks” した後、削除されたクリップが XF3 restore インターフェイスに表示されたままになっていた問題を修正。
- > XFile3 アプリケーションを起動するとき、前のセッションから手動で追加された全てまたは一部の XT サーバーが利用できない場合、起動スプラッシュ画面がフリーズすることがあった問題を修正。

バージョン 6.4.5

- > [XTAccess] アセットのデュレーションが、ブロック拡張子と一致しない場合があった問題を修正。

既知のバグと制限事項

既知のバグ

バージョン 6.6以降

- > 複数のユーザー アカウントを使用している場合、XFile3 を起動できません。
たとえば、すでに Xfile3 を起動している以前のユーザーとは異なるユーザーで Windows にログオンし、この 2 番目のユーザー アカウントから Xfile3 を起動しようとします。
Xfile3 6.4 バージョンで問題が検出されました。
- > [Archive] クリップの IN ポイントまたは OUT ポイントがドロップ フレーム タイムコードの近くに作成され、アーカイブ オプションの Limit to Short In/Out が使用されている場合、このクリップのアーカイブ ジョブは失敗します
回避策は、特定のクリップに対してLimit to Short In/Out を使用しないこと、またはアーカイブする前に IN/OUT クリップ ポイントを調整することです。
- > [Autoarchive] 新しいオプション“Same as source”を XMO ワークフローと組み合わせて使用すると、Multicam 20.5 以前を使用し、ルール設定によっては、XMO からの結果のクリップが同じルールによって再度取得され、何回も何回も、XMO に送信される可能性があります。
これは、Multicam 20.6 を使用する場合には当てはまりません。

バージョン 6.5以降

- > [MediaManager] プレーヤーでファイルのメタデータを編集し、変更を保存する前に他のファイルを選択し、“unsaved changes” ポップアップメッセージで “Cancel” を選択すると、メッセージが再度表示されます。
- > [Archive] 1080p で作業している場合、Xfile3 から Flatten Playlist を起動すると余分なフレームが追加される場合があります。
- > [Archive] LSM リモコン (LSM-VIA ではない) のセットアップで操作する場合、Flatten Playlist が機能しない場合があります、“Object reference not set to an instance of an object” というメッセージが表示されてジョブが失敗します。
このバグは体系的なものではないため、同じ操作を再試行すると回避策として機能する可能性があります。

バージョン 6.4以降

- > [AutoArchive] XFile3 を起動し、“Flag for archive”に基づいて既存の AutoArchive ルールをすばやく起動する場合 サーバー同期フェーズ (XFile3 の起動時) 中に、クリップをアーカイブするようにマークしても、その正確な瞬間に Xfile3 に影響を与えない可能性があり、したがって、これらのフラグ付きクリップに対してジョブはトリガーされません。
これは、XFile3 がオフのときにサーバー同期フェーズまたはフラグが立てられたクリップ以外では発生しません。

バージョン 6.3以降

- > Contribution workflows (C-Next + XFile3)を使用する場合、外部の場所へのArchiveジョブはステップ2/2で失敗します。
Contribution workflowsが必要な場合は、6.3修正パッチが利用可能になるまで、6.1バージョンを使用することをお勧めします。
- > XTサーバーのREC名を変更する場合、変更はXFile3のストリーミングインターフェイスで更新されません。
回避策:XFile3アプリケーションを再起動してください。
- > 一部のXTがLSM-VIA (Hammer Servicesの実行)によって制御され、一部がLSMによって制御される混合シナリオのセットアップで作業する場合、LSMによって制御されるXTのローカルプレイリストに LSM-VIAによって制御されるXTからのネットワーククリップも含まれている場合、EDL+Clips Archiveは、LSM-VIAによって制御されるサーバーのネットワーククリップを無視します。
- > プレイリストをXTにアーカイブ(フラット化)する場合、全ての利用可能な宛先/トランスコーディングはXSquareで使用されていると見なされます。
これは、XSquare設定の “EDL Sub Jobs”がデフォルトで“Auto”に設定されているためです。
この設定値を変更し、フラット化ジョブで使用する宛先の数を定義すると、それが解決され、回避策として機能します。

制限事項

- > [AutoArchive] LSM-VIA を使用したセットアップでは、すでに自動アーカイブされているクリップが LSM-VIA オペレーターによって変更されると、アーカイブされたクリップのメタデータは、オリジナルのものを残す TC-IN/OUT を除いて正しく更新されます。
回避策として、自動アーカイブ後に LSM-VIA オペレーターによってクリップが再トリミングされた場合は、クリップを手動でアーカイブすることをお勧めします。
- > XFile3 と同じ VLAN 内の EVS ビデオ サーバーは、LinX プロトコルによって自動的に検出され、Servers Discovery タブに表示されます。
IP アドレスの範囲外にある EVS サーバーを手動で検出することができます。
XFile3 は、同時に最大 31 台のサーバーに接続して動作することができます。
- > VIA Licensing UI は XFile3 にのみ統合されています。
XFileLite は近い将来これを統合する予定です。
- > XViewer (XFile3 に統合) ライセンスは、管理に XSecure を引き続き使用します。
- > XFile3 Restore/Autorestore タブには、宛先として 'to XT server' が設定されている XSQ エンコーダー プロファイルのみが表示されます。
- > 300% を超える速度でプレイリストをフラット化することはできません。
ユーザーからのフィードバックを改善するためにメッセージが調整されました。
- > [Monitoring] 後処理の場合、進捗情報はありません。
- > 自動アーカイブ機能を使用すると、アーカイブ中に XML コンパニオン ファイルが作成された場合にのみ、更新されたメタデータを含むファイル名が更新されます。
- > 複数の XFile3 が複数の SDTI ネットワークの構成で使用されている場合、XFile3 GUI 内のサーバーのリストの順序が異なる場合があります。
- > すべてのサーバーに同じ TC が供給されていない場合、XFile3 ストリーミングは正しく機能しない可能性があります。
- > 既存のクリップがフォルダーにバックアップされ、ユーザーがアーカイブ ステータス (0) の選択を解除した場合、クリップにアーカイブされるフラグが再設定された場合、XFile3 はクリップをバックアップしますが、アーカイブされた値は更新されません。
- > XFile3 のサーバー検出メカニズムでは、すべての PC LAN サーバー ポートが XFile3 ハードウェア内の同じネットワーク カードから認識できる必要があります。
- > Restore: ソース ファイル名は 260 文字未満、フォルダー名は 248 文字未満である必要があります。

互換性

ソフトウェア

- > XFile3 6.6 は、以下と互換性があります：
 - > Windows 10 64 bits バージョン 2019 LTSC
 - > Windows 10 64 bits (検証済みバージョン: Windows 10 バージョン 1607 [LSTB または CBB])
- > XFile3 6.6 は、以下と互換性がありません：
 - > Windows 32 bits バージョン
 - > 上記以外のすべてのWindowsバージョン(Windows 7 64 bits、Windows XP、Windows 8、Windows Server 2003、Windows Server 2012、Windows Server 2016、その他)
- > EVS 互換性：
 - > Multicam 16.6 以降、20.1 以降
 - > VIA-XSquare 4.8 (XTAccess 4.8含む)
- > これは、64-bit バージョンの XFile3です。
 - > このバージョンは、以前の32ビットバージョンと互換性がありません。
XFile3の32ビット(4.15.0以前)バージョンと64ビットバージョン(5.0以降)を同時にインストールしないでください。
- > XFile3インストーラーは、新しいバージョンをインストールする前に、最初に以前のバージョンのXFile3と依存関係を削除します。

ハードウェア

- > XFile3 6.6アプリケーションは、次のXFile3ハードウェアでサポートされています
 - > REF: PMA2-6801S
 - > REF: PMA2-6501S
 - > REF: XF3-2U-4
- > XFile Liteモードで実行する場合、アプリケーションを別のハードウェアにインストールできます。
- > 4台以上のXfile3を使用する場合は、XT3、XT4K、XS3、XS4KサーバーにH3XPボードが必要です。
- > EVS 互換性：
 - > 互換: XT3、XT4K、XT-VIA、XT-GO
 - > 互換: XS、XS3、XS4K、XS-VIA